



発行
浮田地区コミュニティ会議
電話&FAX
0198-42-1681

タイトル画説明

カウカウとなく声に、空を見上げ白鳥の姿をさがす。山でよぶ声に、尾を上げた小さな鳥をさがす。ハクチョウもミンソザイも出会えた日はとても幸せ!
絵・文(実)

出前寄席!
満員御礼!

冬本番12月、中内、浮田、毒沢各地区で「ホツとする寄席」が、万全のコロナ対策の下、開催されました。毒沢では、結成9年目の「満月亭」星鴉さんと星布団さんに登場願いました。古典ネタから新作ネタ、滑稽に人情噺や怪談噺：何でもござれの御一門です。お客はご隠居と八つあんのやり取りに想像力を働かせ、終始笑い、脳の活性化に効果無限大。聴衆参加型の『カラオケ落語』も歌声と笑いの渦に包まれました。笑う門には福来る。笑って笑ってワッハッハ。大いに免疫力を高めて「おもしろがったなく又会うべし」と福の神を背負って元気に家路に向かった面々でした。
(茂)

木材活用研修でお出かけ

盛岡木材流通センター(矢巾町)と薪ストーブ店(雫石町小岩井口)を訪ねました。木材センターは、県内唯一の木材の競り市場です。



広場には、次の競りを待つ見事な丸太材が並べられています。八割近くが、ナラ、クリ、ケヤキなどの広葉樹でした。直径50センチを越えるものも見えます。ナラはフローリング用など、クリは文化財級の神社などの柱のほかに、ケヤキは高級家具の用材などに。針葉樹はスギ、マツ、カラマツで、数量はスギが半分ですが、販売金額ではさすがの南部アカマツが半額を占めるそうです。販売先は、県内や隣県で八割強になります。岡山県や岐阜

県などもお得意様なそうです。



薪ストーブ店「木ごころ」では、欧米製の黒い鋳物で揺らぐ炎に迎えられました。薪ストーブといえばアナログのイメージですが、燃焼のための最適空気量などをコンピューター制御して、燃料の薪の節約や灰を少なくすると聞いて、たまげました。帰ってまた。(保)



しめ縄づくり教室

しめ縄は、新年を迎える前に玄関先に飾って、年神様をお迎えするためのもので、その年の豊作などを祈るものでもあります。

今まで、中内公民館主催で開催していましたが、コロナ禍により中断していた教室を生涯学習部で復活しました。前コミュニティ会長平野保さんが講師を務め、わらは中内産の餅わらを使い、谷内水車小屋で打ち込みました。

冬季・書道教室



手の向きから学び、特に難しいのは、内側は太く重ね合わせながら緋い、外側は

久しぶりに毛筆の感触を味わう書道教室の日は27日と1月6日の2回開催されました。千葉稔先生の指導により、基本(はねやとめ)、筆順などを心にとどめながら、『書初め』を行いました。一筆一筆、気持ちのせ、書き上げた。先生の赤丸が嬉しいもの。書き上げた白と黒のコントラストは「毛筆は文字を美しく芸術だ」と言います。すが、久々の書道教室でし

細く仕上げることです。苦心されていきました。熟練の人は、大根トシナ、ごぼうトシナも作り上げ、飾りもつけて完成しています。参加者の中からは「子ども会行事に組み入れ伝承行事にしてほしい」と来年の開催の要望がありました。

(秀)



た。皆さんもぜひ参加して欲しいです。書はシンプルに感動します。

(二三)

「小正月行事の風景」

コロナ感染拡大が心配される中ではありましたが、会食を行わないという方法をとって、子どもたちを交えて毒沢・中内では小正月行事が開催されました。また今回開催を見合わせた浮

田でも「世代間交流事業を通じて子どもたちの郷土愛を育むことを大事に思う。とても有難い」「来年こそは集まって小正月行事が行えたら」という声が聞かれました。

(多)



中内公民館



毒沢公民館



蕎麦打ち講座 開催

近年自分流蕎麦作りが静かなブームになっている事をご存知でしょうか？

コミュニティ会議では、手打ち十割蕎麦の作り方体験講座を去る12月7日振興センターで開きました。講師は高橋好(このむ)氏(南笹間)。8名が受講しました。

蕎麦粉と水を受け取った受講者はそれぞれが「捏鉢・綿棒・駒板」を使い、悪戦苦闘しながら太さマチマチな手作り感満載の自分流蕎麦を作り上げました。



粉に水を含ませる時は「体温が移らないよう指先で掻き混ぜ、塊は体重をかけて素早く作る」などを教わると「オラ才能あるかも！」と言い出す受講者も居て賑やかな内に講座は終了。自分の作った蕎麦はそれぞれが持ち帰って試食しました。(浩)



事務「局遊だ報より

○福祉生活部では「高齢者の安心とはつらつ支援事業」として今年度も「独居老人等訪問活動」を1月と2月に実施しました。当日は部会員により中内大豆工房の豆腐(1月)朝日森パン工房のメロンパン(2月)をもつて、最近の様子をうかがっていただきました。皆さんに喜んでいただいている事業で、今後も続けてゆきたい事業です。



○前年度の冬に引き続き、この冬も雪の多いそして寒い冬で大変でした。今年度から「地域内除雪支援」を作って地域内で除雪をお願いしたい人と、機械等で除雪して頂ける人を結び付け、コミュニティ会議から経費の一部を補助する制度を作っ

て活用を頂きました。始めたばかりの事業のため、不備な点もあったと思いますが、来年度に向け皆さんからのご意見を参考に、さらに使いやすいものにしてゆきたいと考えております。

○令和3年度の養成講座を終了し、令和4年度から新しく「食生活改善推進員」として活動してくださる方々を紹介いたします。

中内の伊藤恵美さん、昆明美さんの2名です。地域の食育アドバイザーとして、食育の普及・啓発や食を通じての成人病予防など、ご活躍をご祈念いたします。(輝)



伊藤 恵美さん



昆明美さん

編集後記

今年度はコロナ感染(第5波)で始まり、オミクロン株(第6波)で年度が過ぎようとしています。心配された東京オリンピックは、無観客で開催され、日本は大活躍して感動を与えてくれ史上最多のメダルを獲得したことは、記憶の新しいところです。

そんな中コミュニティ会議では、施設利用ガイドラインに合わせた活動を実施し、記事として掲載しました。今年度もご愛読頂き有難うございました。

尚、結いの里便り発行10周年記念として創刊から40号までの総集版を発刊致しましたので、どうぞ懐かしんで頂ければと思います。(秀)

編集委員長

平野 秀明(上浮田)

編集委員

平野 浩一(宮田)

平野 保(毒沢)

山本 実紀(毒沢)

藤井 茂(毒沢)

千葉 美恵(下浮田)

千葉 二三恵(中内)

山口 友恵(宮田)

題字

千葉 稔(下浮田)

事務局

藤井 輝雄(中内)

小田島 多賀子(下浮田)